

島根県立図書館所蔵の往来物資料について

—目的別と出版地域別の分類整理—

Investigation report on "OURAIMONO" documents of Shimane Prefectural Library possession: A study based on the publication place and the purposeful classification analysis

郡 千寿子*
Chizuko KOHRI*

要 旨

島根県立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要をここに報告する。『島根県立図書館 蔵書目録 第1巻～9巻』を参考に調査し、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。加えて、文献調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、32本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、教訓科往来が6本、社会科往来は所蔵がなく、語彙科往来が3本、消息科往来が3本、地理科往来および歴史科往来、産業科往来の所蔵がなく、理科往来が14本、女子用往来が6本という結果であった。出版地域別の分類では、江戸が10本、京都が3本、大坂が8本で、不明が11本という結果であった。地理的に近い関西圏からの流入が多いと予想されたが、京都の3本と大坂の8本を合わせると11本で、確かに江戸の10本より多いが、その差は1本だけである。出版地域不明が11本あり、総資料数が32本であることを合わせて考えると、明らかな差異とはいえないであろう。つまり、関西圏が多いとの予想に反して、意外にも江戸出版の資料も同じ程度、所蔵が確認された。

往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化传播状況などを解明することを目的としているが、本稿は、山陰地域の最初の調査地点であり、他地域の状況と比較する上で基盤となる調査の一報である。

キーワード：山陰、島根、往来物、言語生活、地域文化、教育背景

1 研究の背景について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究¹⁾をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のものが出版された。従来の往来物研究は、教育史資料という側面からなされてきたが、日本社会の近代化や人間文化形成に果たした役割や影響など、多くの未開拓課題が存在し、新たな視点からの活用が期待されている。

しかし、文献資料の基礎的研究をはじめとして、発

掘も十分にすすんでいない現状にあり、そうした事情を背景に、東北地域の調査研究²⁾を発端に、東北地域と海域でつながり、近世期に関西とも文化交流など関係が深かったと予測される、北陸地域にも調査対象³⁾を拡げて研究成果を公表してきた。地域間格差や文化传播事情など研究の進展を目指し、新たに本稿では、山陰地域の調査として、島根県立図書館所蔵の資料について報告する。

2 調査方法

従来すすめてきた所蔵往来物の調査にならい、原則として、写本は除き、版本に限って成立時期や出版元

*弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

を確認した。調査対象の資料それぞれについて、目的別と出版地域別に分類整理⁴⁾して、地域ごとの特徴について今後考察検討したいと思うが、写本を除いたのには意味がある。本研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本は、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況⁵⁾を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。

基本的に従来の調査手法を踏襲し、調査対象の往来物資料を厳選し、分類整理を試みた。文献資料の記載内容については、『国書総目録』⁹⁾および『古典籍総合目録』⁶⁾と『往来物解題辞典 解題編』⁴⁾によって確認検討した。

3 調査結果

『島根県立図書館 蔵書目録 第1巻～9巻』を参考に調査し、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。和本に関する目録は作成されていないため、蔵書目録を参考に該当資料調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、32本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、教訓科往来が6本、社会科往来は所蔵がなく、語彙科往来が3本、消息科

往来が3本、地理科往来および歴史科往来、産業科往来の所蔵がなく、理数科往来が14本、女子用往来が6本という結果であった。出版地域別の分類では、江戸が10本、京都が3本、大坂が8本で、不明が11本という結果であった。

3-1 目的別分類について

教訓科往来に分類した資料は、『和字功過自知録』『童子訓』『初学訓』『主従心得草』『増補絵抄 和字功過自知録』『民家訓』の6本である。

社会科往来は所蔵が見当たらず、語彙科資料に分類した資料は、『対類音便字音濁語 仮名便覧』『和字大鈔』『倭楷正訛』の3本である。

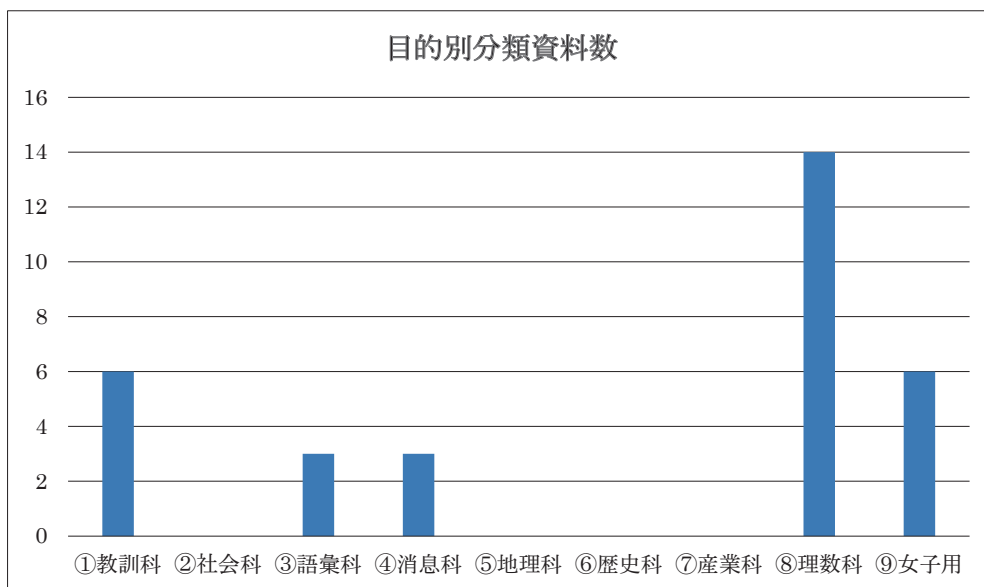
消息科往来に分類した資料は、『尺読彙材』『庭訓往来具注鈔』『書翰初学抄』の3本である。地理科往来、歴史科往来、産業科往来の所蔵は見当たらなかった。

理数科往来に分類した資料は、『気海観 廣義』『算法智恵海大全』『算法點鼠手引草 初編』『算法點鼠手引草 二編』『曆算全書』『括要算法』『算学啓蒙』『神壁算法』『算法點鼠指南』『精要算法』『算法闕疑抄』『解惑辯誤』『初学天文指南』『日東通曆』の14本である。

女子用往来に分類した資料は、『女四書』『比売鑑』『女学範』『女訓おきな草』『女大学・女今川』『女小学教鑑』の6本である。

目的別分類では、最も多いのが理数科往来資料の14

【グラフ1】



本で、約43.6%を占めている。次に教訓科往来の6本で約18.8%、女子用往来資料の6本で約18.8%、続いて語彙科往来資料の3本で約15.6%、消息科往来の3本で約9.0%となる。社会科往来と地理科往来、歴史家往来、産業科往来は、所蔵が確認できず0という結果であった。

従来の東北地域、北陸地域の調査結果によれば、『庭訓往来』に代表される消息科往来の占める割合が大きい地域が多い傾向にあった。その点において、島根県立図書館の調査結果は特徴的といえるであろう。たとえば、東北地域の弘前市立図書館、山形教育資料館では、消息科往来が最多であり、日本海沿岸の山形の酒田光丘文庫でも女子用往来に次いで消息科往来が多かった。北陸の石川県立図書館は、突出して消息科往来資料が多く、総数34本のうち、20本が消息科往来であり、全体の約59%を占めていた。目的別分類からみれば、一般的に多いとの印象がある、消息科往来が、島根県立図書館では少ないという点が特徴といえそうである。

最も興味深い点は、理数科往来資料の多さである。理数科往来は、一般的に残存している資料が少ないと言われ、刊行も多くないとされているが、秋田県立図書館では、所蔵数が最多であり、特徴的な様相をみせていた。島根県立図書館においても、理数科往来が多いという地域的傾向がうかがえる結果であり、注目すべき点であるといえる。

島根県立図書館の状況について、【グラフ1】に目的別分類資料数を示し、【グラフ2】にその割合を明示した。参考として、所蔵往来物資料総数32本の島根

県立図書館と所蔵数において、近似である、総数34本であった石川県立図書館との比較も行ってみた。

①教訓科往来 ②社会科往来 ③語彙科往来 ④消息科往来 ⑤地理科往来 ⑥歴史科往来 ⑦産業科往来 ⑧理数科往来 ⑨女子用往来 について【グラフ3】に整理し、島根県立図書館と石川県立図書館の往来物資料の目的別分類の偏在状況を示した。

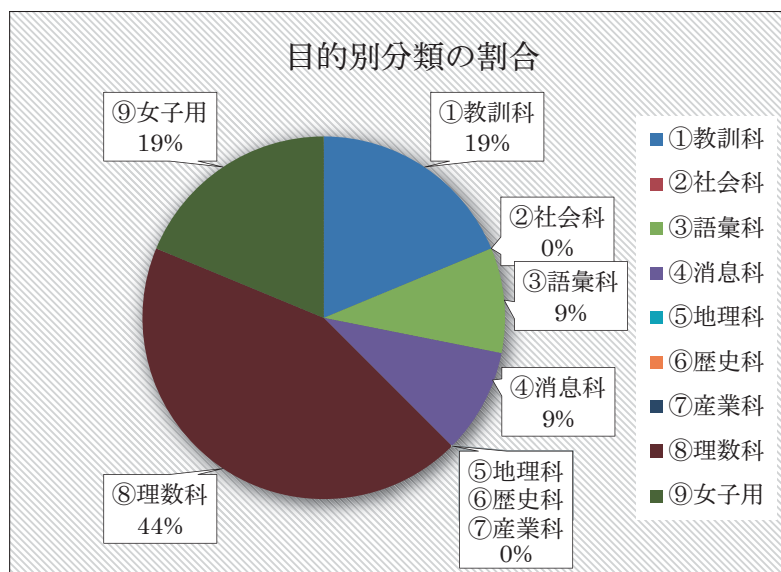
3-2 出版地域別分類について

出版地域別の分類では、江戸の出版が10本確認された。たとえば教訓科往来の『主従心得草』は、「寿福軒真鏡著」「江戸」の「和泉屋庄治郎」が「弘化四年」に出版したものである。

消息科往来の『尺読彙材』は、「戸崎淡園著」で「須原屋伊八」が「文化五年」に出版しており、また女子用往来の『女学範』は、「大江玄圃著」「明和五年」に「江戸」の「須原屋茂兵衛」が出版している。また『女大学・女今川』は、「江戸」の「近江屋右兵衛」が「寛政二年」に出版している。

理数科往来の『気海観 廣義』は、「川本祐編」「安政三年」に「江戸」の「和泉屋古兵衛」が出版している。また『算法 鼠手引草』は、「大村金吾一秀編」「天保十二年」に「江戸」の「西宮弥兵衛」が、『算法 鼠指南』は、「大原利明門 大原金杉門人等編」「文化七年」に「江戸」の「須原屋茂兵衛」が出版。『精要算法』は、「藤田雄山著」「店名元年」に「江戸」の「山崎金兵衛」が、『解惑辨誤』は、「神谷幸吉著」「寛政八年」に「須原屋茂兵衛」が、そして『日東通曆』

【グラフ2】



は、「杉村長郡著」「享保十七年」に「皇都」の「梅村弥右衛門」が出版したことを確認した。

江戸の出版が確認できた資料は、教訓科往来が1本、消息科往来が1本、理数科往来が6本、女子用往来が2本で、合計10本と整理できる。

京都の出版が確認できた資料は、3本であった。教訓科往来の『初学訓』は、「貝原益軒著」で「京都」の「瑞錦堂」が「文化十二年」に出版している。女子用往来の『女訓おきな草』は、「竹田春庵著」で「京都」の「永田調兵衛」が出版。語彙科往来の『和字大勸抄』は、「銭屋利兵衛」が「寛政七年」に出版していることを確認している。つまり、教訓科往来で1本、語彙科往来で1本、女子用往来で1本の計3本が京都の出版ということになる。

大坂の出版と分類した資料は、8本であった。教訓科往来の『和字功過自知録』は、「大坂」の「浅野弥兵衛」が「安永五年」に出版、「貝原益軒著」の『童子訓』も、「大坂」の「渋川清右衛門」が「安永二年」に出版している。消息科往来では、『庭訓往来具注抄』が「浪速」で「嘉永七年」に出版、『書 初学抄』も「浪華」の「加賀屋善蔵」が「文政十一年」に出版したことが知られた。

語彙科往来の『倭楷正訛』は、「太宰春台著」「明和三年」に「浪速」の「構航堂」が出版。理数科往来で「大坂」と確認した資料は、『算法智恵海大全』があり、「江馬久重著」で「大坂」の「柏原屋清右衛門」が「寛政五年」に出版、『初学天文指南』は、「馬場信

武著」で「宝永三年」に「浪速」の「前川嘉七」が出版している。

女子用往来の『女小学教鑑』は、「大坂心齋橋」の「敦賀屋九兵衛」の出版と確認できた。つまり、大坂出版とした資料は、教訓科往来が2本、消息科往来が2本、語彙科往来が1本、女子用往来が1本の計8本ということになる。

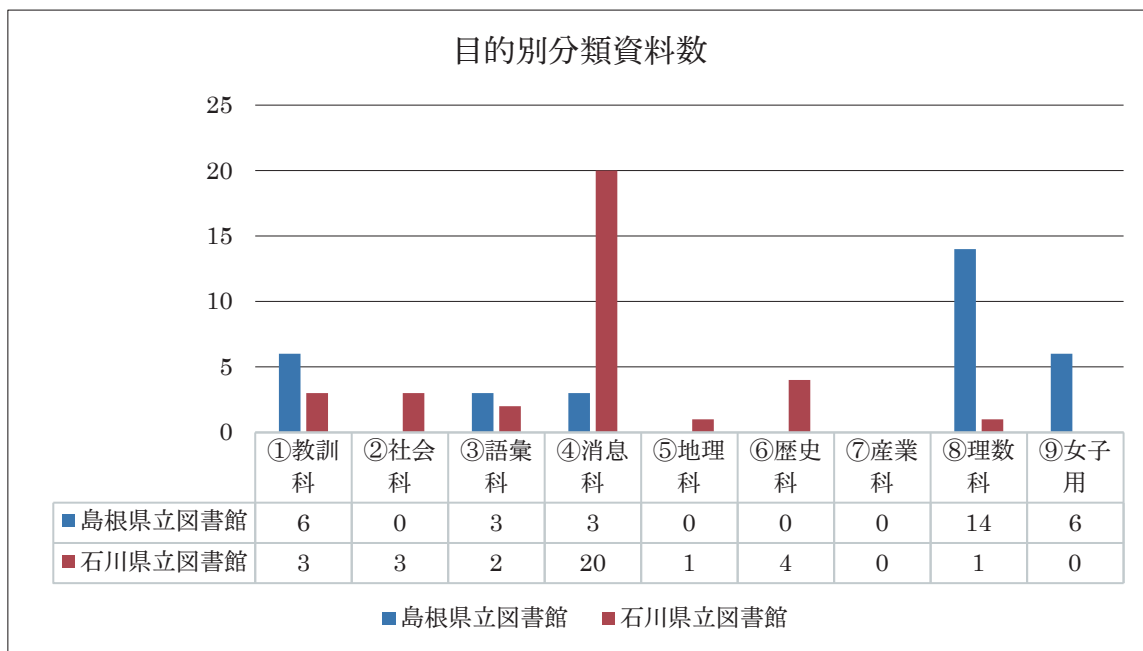
その他、出版地域が不明で確認できなかった資料が11本として分類整理した。このように出版地域別の分類では、総数32本のうち、江戸出版が10本で約32.2%、京都が3本で約9.3%、大坂が8本で25.0%となり、不明が11本で約34.3%である。

京都と大坂を関西圏としてまとめると11本になる。江戸が10本であったことから、関西と江戸、という区分でみると、僅差であることが知られる。地理的に近いと考えられる関西圏からの流入が多いと予想されたが、江戸との違いは1本だけであり、大きな差異が見られなかった。

出版地域の不明が11本もあり、総資料数が32本ということも考え合わせると、明らかな相違点とはいえないと思われ、関西圏だけでなく、意外にも江戸出版の資料が多いことが確認されたのであった。

島根県立図書館所蔵資料の出版地域別分類をグラフで示したものが【グラフ4】である。試みに総資料数が近かった、石川県立図書館の所蔵資料と比較してみたのが【グラフ5】である。石川では、江戸が11本、京都が9本、大坂が4本、不明が10本である。数値で

【グラフ3】



比較してみると、江戸は大差なく、京都と大坂の出版数が逆転しているが、関西圏としては13本であり、およその傾向が似ているといえるのではないだろうか。

興味深い点は、石川も島根も、距離的には関西圏に近いのであるが、江戸の出版資料が比較的多いということである。所蔵資料数が多くないため、本調査結果だけで傾向を図ることは慎重でなければならないが、地域特性を考える上でひとつの参考にはなり得ると思われる。

4 まとめにかえて

『島根県立図書館 蔵書目録 第1巻～9巻』を参考に近世期に出版された往来物資料の所蔵状況を概観してみた。特に本稿では、目的別に分類した場合と出版地域別に分類した場合について、総所蔵数が近似している石川県立図書館との比較にも触れながら、整理し紹介してみた。

総数では、32本の近世期版本の往来物資料が確認され、目的別に分類してみると、教訓科往来が6本、社会科往来は所蔵がなく、語彙科往来が3本、消息科往来が3本、地理科往来および歴史科往来、産業科往来の所蔵がなく、理数科往来が14本、女子用往来が6本という結果であった。

消息科往来資料が3本と少ないこと、理数科往来資料が14本と最多であること、社会科往来、地理科往来、歴史科往来、産業科往来の所蔵がなかったこと等の偏在状況が明らかとなった。

また、出版地域別の分類では、江戸が10本、京都が3本、大坂が8本で、不明が11本という結果であった。地理的に近い関西圏からの流入が多いと予想されたが、京都の3本と大坂の8本を合わせると11本で、確かに江戸の10本より多いが、その差は1本だけであった。関西圏の出版資料と江戸の出版資料が同じ程度の所蔵であることが確認でき、その点もひとつの特徴であると考えられる。

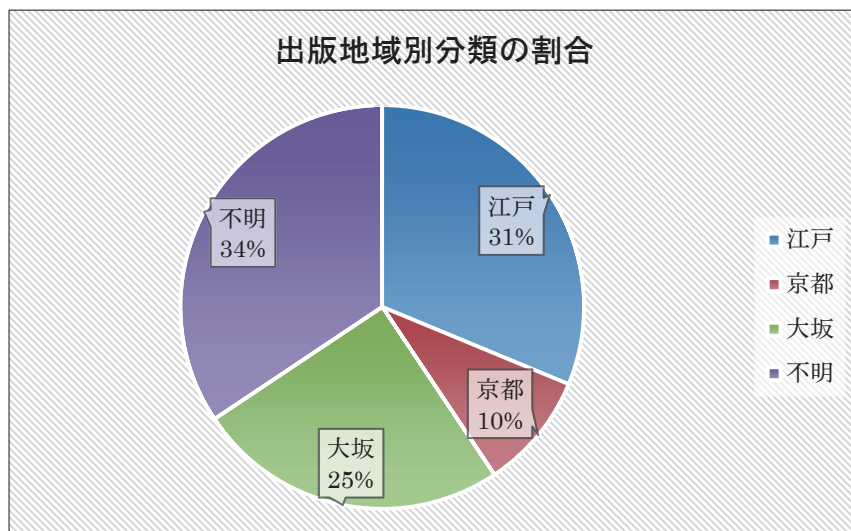
往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、本稿は、山陰地域の最初の調査報告である。従来、山陰地域の往来物資料は、『往来物解題辞典』にも記載が少なく、調査の空白地帯であった。そういう意味でも貴重な調査であるといえ、今後、他地域の状況と比較する上でも基盤となる調査報告といえるだろう。

紙幅の関係で資料紹介は別稿に譲るが、残された課題を引き続き検討することとしたい。

注

- 1) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第1輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)、拙稿「往来物の「女ことば」について」(『関西文化研究叢書 10巻』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月)、拙稿「近世期における「御所こ

【グラフ4】



とば」の記載について—東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告—(『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月)、拙稿「国語資料としての『都花月名所』—江戸時代後期における漢字表記と振り仮名—(『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月)、拙稿「『南都名所記』についての一考察—山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性—(『弘前大学教育学部研究紀要』第110号、2013年10月)等参照。

- 2) 拙稿「岩手県立図書館所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月)、拙稿「八戸市立図書館 旧遠山家所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010年3月)、拙稿「酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出版地からの分類分析—(『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月)、拙稿「山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料—目的別分類からの考察—(『弘前大学教育学部研究紀要』第108号、2012年10月)、拙稿「山形における江戸時代の書籍流通について—往来物資料の出版地域からの検討—(『弘前大学教育学部研究紀要』第109号、2013年3月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察—弘前・酒田・山形との比較検討—(『弘前大学教育学部研究紀要』第111号、2014年3月)等参照。
- 3) 拙稿「富山県立公文書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第114号、2015年10月)、拙稿「高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第116号、2016年3月)、拙稿「長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往

来物—横山家文書からの報告—(『弘前大学教育学部研究紀要』第117号、2017年10月)、拙稿「新潟長岡「斯道館資料」の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第118号、2018年3月)、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—出版地域別の観点から—(『弘前大学教育学部研究紀要』第121号、2019年3月)、拙稿「石川県立図書館所蔵の往来物について—特殊文庫における調査報告—(『弘前大学教育学部研究紀要』第122号、2019年10月)等参照。

- 4) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 図版編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 5) 『国書総目録 第1～9巻』(岩波書店、1963～1976年)参照。
- 6) 『古典籍総合目録 第1～3巻』(岩波書店、1990年)参照。

【付記】

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、島根県立図書館の関係者各位に心より感謝申し上げます。

本稿は、科学研究費助成事業 JSPS KAKENHI (基盤研究(C) 課題番号19K00620) の助成を受けた研究成果の一部です。

(2021. 1. 5 受理)

【グラフ5】

